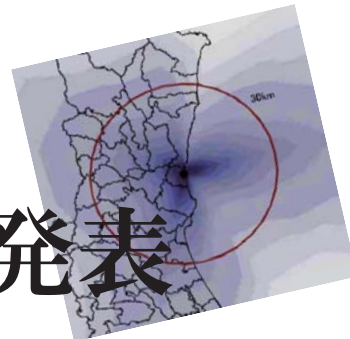


【ものづくり 人づくり 地域づくり】 2012 年度 4-10 月 食品放射能汚染中間まとめ

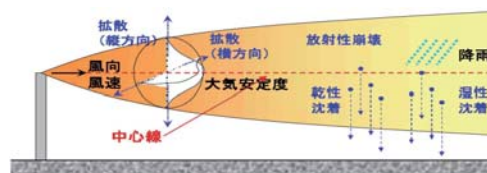
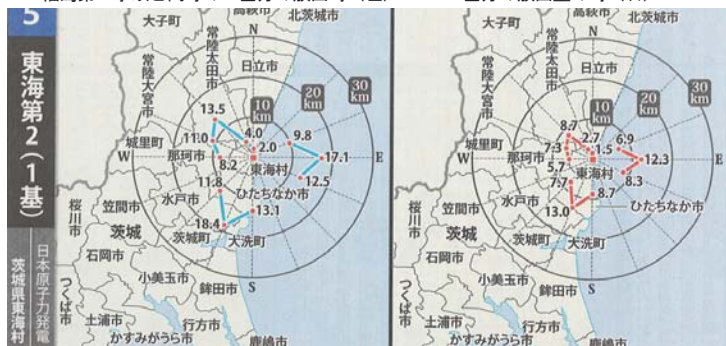
10/24 原子力規制委員会

原発事故時の放射能 拡散シミュレーションを発表

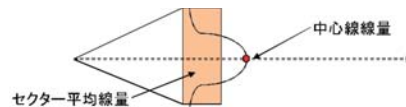


福島第一事故と同等の3基分の放出時（左）

1基分の放出量の時（右）



ガウスブルームモデル



放射性ブルームの釣鐘型先端

【規制委員会シミュレーションの問題点】

1. 福島第一事故が幸運が重なってあの程度の事故で済んだことを考慮していない。本来首都避難レベルだった。それでも福島の人々の苦難と不安はなんら救済されていない。
2. 国際的な一般介入レベル（GIL）は50ミリシーベルトなのに、IAEAが勧める100ミリシーベルト/7日を採用して住民の被ばく基準を倍にしている。福島の人々の恐怖と苦痛を思う心がない。道徳の欠如。
3. シミュレーションの100ミリシーベルト実効線量の加重平均距離は4.2キロメートルで東海村がすっぽり入るが、100%100ミリシーベルトの被ばくをしない距離（裾値）は45.8キロメートルだ。それを明確に言わないから右の橋本知事のようになる。
4. 放射性雲（ブルーム）による被ばくを一番濃度の高い最先端（中心線線量）を考えずに、平均化した「セクター平均線量」で薄めている（上図）。被ばくの過小化。
5. 原子力施設が密集する東海村で隣接する再処理施設や高速増殖炉実験炉常陽などの同時多発重畳事故発生は考慮されていない。（10/26 速報）

（エピソード）

原子力規制委員会は10月24日、全国の各原発で炉心溶融など過酷事故が起きた場合の放射性物質拡散シミュレーションを発表した。

東海第2原発で福島と同様の事故あるとき、7日間で100ミリシーベルトの被ばくをするのは最大で13kmと試算している。

これを見て、茨城県の橋本知事は

「これならUPZ（緊急防護措置区域）を半径30キロにする必要がないのではないかと。13キロなら避難させる対象人口はぐっと減る」とはしゃいだ。

対して規制委員会田中委員長は

「事前に対策を準備しておくべき区域としては30キロ圏で十分だが、福島第一原発事故でも実際に避難した飯館村などは30キロ圏外だ。UPZより遠いところは放射線量の実測値にもとづいた速やかな避難対応が必要だ。」とたしなめた。（10/25）

【今週のニュース】

（1P）原子力規制庁「事故時の放射性物質拡散シミュレーション」を発表

（2～3P）放射能汚染から2年次 **4月～10月食品の放射能検査の中間まとめ**

（4P）福島の子にコットンボールを贈ろう！ワタの摘み取りごいっしょしませんか！

【別チラシ】平和のつどい委員会 首都防衛「柏飛行場」・幻想の戦闘機「秋水」の遺構見学会ご案内

【ゲルマニウム半導体検査器導入から半年～事故後2年次の食品汚染 中間とりまとめ】

2012年 4～10月 「食品」放射能検査のまとめ

逐次商品カタログで表示・報告していた検査結果を商品部門別に整理して報告します。

【検査方針】追加の人工放射能の健康影響は現時点では誰もわかっていない。従って安全の基準はないので、基準は設けない。国の基準は国の基準でしかないため、生協自身で可能な限りの検査を尽くして事実を検査して公開し、消費者組員が経口摂取による内部被ばくを低減するための判断材料を提供する。

【検出限界】各核種5ベクレル/kg（セシウム合計で10ベクレル/kg）。水や主食のコメなど摂取量の多いものは各核種検出限界0.5ベクレル/kg以下で検査する。（セシウム計1ベクレル/kg）

【検査対象地域】関東1都6県、東北6県、静岡県（水産物については関東1都6県の太平洋沿岸、三陸沿岸、および北海道南部海域、静岡県沿岸）で生産された作物および主原料。

【検査対象時期】原発事故後に収穫された作物および主原料。

部門	検査数	検査方針（ ）の数字は検体数	測定結果（左の検体数の中で主に検出されたもの）												
農産品	540	野菜 (415) シーズン初物を順次検査、必要に応じて収穫前の事前検査も実施 同じ作物でも収穫する畑が変わった場合は検査を実施	【野菜】・対象地域の野菜 290 検体を検出限界各5Bq / kg以下で検査、供給の野菜はすべて不検出。 （特別調査研究）日本有機農業研究会との合同研究で石岡魚住農園の野菜26検体各野菜粉砕2gを検出限界各1Bq / kg以下で実験的に検査 ①根菜・果菜類はすべて不検出（検出限界0.5～0.7 Bq / kg） ②葉菜類の一部で微量の検出あり（サニーレタス：Cs合計0.7 Bq / kg、ニラ：Cs合計2.2 Bq / kg） 「たけのこ」は個体差あるもののCs合計100 Bq / kg前後の検出で供給断念。												
		果物 (68) シーズン初物を順次検査	【果物】神奈川県江川さんのキウイから3.6 Bq / kg、梅は不検出。静岡県松永さんレモンが3月時点で4～8Bq / kg、9月時点の新物で不検出（4Bq / kg以下）に。甘夏5Bq / kg、ビワ・みかんは不検出。静岡県渥美さんの柑橘類はすべて不検出。山形県産の果物はすべて不検出。栗は事前調査では不検出（3Bq / kg以下）だったのが、完熟して収穫・出荷前直前検査で7.6 Bq / kg検出で、お知らせしたお届け。												
		きのこ類 (57) 菌茸類は移行係数が高いため、月1回の定期検査を実施（菌床・菌茸本体）	【原木しいたけ】 原発事故直前（2011年2月）に導入した原木が被ばく（つくば市にて）。植菌後1年後の2012年3月より放射能が検出されはじめ、5月60ベクレル超時点で生産者飯泉さんより出荷自粛、中止。 原木の洗浄除染作業は昨年9月より開始。茨城県農産部も入って原木の洗浄除染調査研究、60％除染を確認。プルシアンブルーによる除染はシアンのしいたけへの移行の危険性が考えられることから中止。再開は除染原木を使ったしいたけの結果で。 【なめこ・えのき・しめじ・マッシュルーム】検出限界各5Bq / kg以下ですべて不検出 【舞茸】は10/5時点の定期検査で6.4 Bq / kgの検出あり、頻度を短くして経過観察（個体差によるバラつきはある） ⇒10/18検査7.9 Bq / kg、10/23検査11.4 Bq / kg												
	143	（畑土壌） (143) 茨城県内主要生産者については畑の土壌を定期検査（毎年3月実施、10年間継続）	・県内主要生産者別に計143枚の畑を土壌検査。 Cs合計濃度平均は153 Bq / kg（2011年）⇒98 Bq / kg（2012年）に低下												
	51	（落葉・堆肥） (51) 畑に投入する生産資材関係（落葉・灰・籾殻・堆肥など）も検査対象とする	・なめこ・えのき・しめじの栽培用の菌床原料のおがくずを定期観察。 ・生産者使用堆肥はN.D～198 Bq / kgとバラつきあるものの耕耘後の土壌濃度と同レベルと判定し使用可能。 ・堆肥原料となる落葉は事故時に葉をつけていなかったクヌギ・コナラの落ち葉は利用可。事故時葉をつけていて直接汚染されたカシの落ち葉は土壌中に鋤込みまたは隔離。												
水産品	123	魚 (123) ・鮮魚については対象海域で漁獲されたものを検査 ・水産加工品については、震災後原料へ切り替わるタイミングで製品検査を実施	検査対象海域で漁獲された震災後原料および鮮魚123検体を検出限界各5Bq / kg以下で検査。千葉県沖アジからmax9.1 Bq / kg。千葉県沖シイラからmax20.8 Bq / kgのため長崎県産に産地変更。 食物連鎖の上下、 <table><tr><td></td><td>根付（非回遊）</td><td>回遊魚</td></tr><tr><td>表層</td><td>しらす・こうなご</td><td>しらす・こうなご</td></tr><tr><td>中層</td><td>スズキ・あじ・いわし</td><td>サンマ・サバ・カツオ・マグロ・サケ</td></tr><tr><td>底層</td><td>ヒラメ・カレイ</td><td>タラ</td></tr></table> ・魚種・習性（定置・回遊）、 ・漁獲層（表層・中層・底層）、 ・漁獲年齢（例：サンマは1～2年目で漁獲）による分類調査をしたが生体濃縮を判定できるデータはとれていない。		根付（非回遊）	回遊魚	表層	しらす・こうなご	しらす・こうなご	中層	スズキ・あじ・いわし	サンマ・サバ・カツオ・マグロ・サケ	底層	ヒラメ・カレイ	タラ
			根付（非回遊）	回遊魚											
表層	しらす・こうなご	しらす・こうなご													
中層	スズキ・あじ・いわし	サンマ・サバ・カツオ・マグロ・サケ													
底層	ヒラメ・カレイ	タラ													
（他の核種について）	骨まで食べる魚（いわし丸干し、煮干、いわし缶詰など）についてストロンチウム検査を検討していたが、上記セシウム検査で5Bq/kg以下のため、セシウムの1/100とされるストロンチウムは検出が困難との見解（同位体研究所）。イカの放射性銀についても未定。														
畜産品	24	牛・豚・鶏肉 (24) 飼料（えさ）に汚染の可能性があるものは生産地域に関係なく検査	牛肉・豚肉・鶏肉（トキワ養鶏・八郷若鶏）は検出限界各5Bq / kg以下ですべて不検出。 茨城県内有機農家で飼育した鶏肉の一部からは微量に検出あり（Cs合計3.9～4.2 Bq / kg）。												
		ハム・ソーセージ	鎌倉ハム原料豚肉4 Bq / kg以下で不検出。												

部門	検査数	検査方針	測定結果（左の検体数の中で主に検出されたもの）
日配品	155	豆腐・納豆 (28) 震災後原料へ切り替わるタイミングで製品検査を実施	【豆腐・納豆】原料が震災後に切り変わるタイミングに来ている為、切り替わり次第順次製品検査中。現在すべて不検出（5Bq / kg以下）。※島田さんの味噌用大豆については収穫前の青大豆検査を10月中に実施予定。昨年仕込んだ味噌も検査を行い昨年度の推定値を検証・今年度予測。
		漬物・煮豆佃煮・麺皮 (64)	【漬物・総菜 34】すべて5Bq / kg以下不検出。【煮豆・佃煮 8】福島相馬産青のり佃煮 max32.6 Bq / kg で供給断念。その他は不検出。【麺・皮 7】岩手県産小麦の麺類すべて不検出（5Bq / kg以下）。【その他 15】
		海藻 (17)	【海藻】岩手県産、宮城県産、千葉県産の海藻（生）はすべて不検出（5Bq / kg以下）。
		乳製品 (46)	【乳製品・デザート】すべて不検出（5Bq / kg以下）。鈴木牧場の乳製品は原乳そのものを0.5 Bq / kg基準の定期検査で不検出。製品も不検出（5Bq / kg以下）。
食品	183	食品 (135) 検査対象地域の主原料を50%以上使用する場合は検査（下記冷凍食品も同様）	【缶詰】いわしの缶詰、2011年8月銚子沖原料で4～6.4 Bq / kg、その後2011年11月原料に切り替わり後不検出（5Bq / kg以下）。【農産乾物】茨城県産干しいたけ乾燥粉砕で142～180 Bq / kg、厚労省基準の「水戻し」測定で7～9 Bq / kg、生産者が出荷自粛。【水産乾物】千葉県産煮干し・煮干し粉不検出（5Bq / kg以下）。岩手県産原料のカットわかめ、こんぶ、海藻サラダも不検出（5Bq / kg以下）。静岡県産原料のかつおぶし、花かつお、だしパック、桜えび等不検出（5Bq / kg以下）。【粉製品】埼玉県産ほかに小麦を原料にした「うどん」から5 Bq / kg。【調味料】検出されたものなし（5Bq / kg以下）
		冷凍食品 (48)	すべて不検出（5Bq / kg以下）
菓子飲料	229	お菓子 (114) 子どもの摂取頻度が高いお菓子類については検査対象地域に関係なく検査	【小麦粉原料菓子】(34) すべて不検出（5Bq / kg以下）。【子ども向け菓子・スナック】(79) すべて不検出（5Bq / kg以下）。【水産乾物】食べる煮干しも不検出（5Bq / kg以下）。
		パン (17)	2011年産つくばユメシホ小麦を原料にしたパンが3～4 Bq / kg。岩手産・北海道産小麦原料パンからは不検出（5Bq / kg以下）。
		飲料・ジュース・酒 (36) 検出限界各1 Bq / kg以下で検査	水（ミネラルウォーター）は検出限界0.4～0.5 Bq / で検査、すべて不検出。ジュース等の飲料は原料が切り替わった商品14検体を5 Bq / kg以下で検査、全て不検出。お酒もすべて不検出。
		お茶 (62) 茶葉については収穫前に茶畑土壌・生葉の検査も実施、最終的には飲用茶で検査	【大石製茶のお茶】収穫前に土壌・生葉も検査、最終的に飲用茶で検査実施。①土壌：不検出（＜31.0、＜31.9～65.9 Bq / kgで比較的汚染状況は低い事を確認）。②生葉は2011年81.2 Bq / kgから2012年産不検出へ（＜4.4、＜3.7）を確認。③乾燥させて製茶にすると不検出～max49 Bq / kg。④抽出後飲用茶（厚労省基準）での測定で8種中1種のみ検出（0.7 Bq / kg）、残りは不検出（0.5 Bq / kg以下）。
米	77	おコメ (77) 主食となる米は検出限界各0.2 Bq / kgの長時間精密検査を実施。穀類はシーズン初物について検出限界各1 Bq / kg以下で検査（雑穀・もち米など）	主食の米は検出限界0.2 Bq / kgの長時間精密検査を実施（めぐみちゃんはんは玄米・白米を生産者別に11検体）、玄米・白米共にすべて昨年を下回る。【めぐみちゃんコシヒカリ】白米は11検体中max0.46 Bq / kg。5検体が不検出（0.2 Bq / kg以下）。【JAやさと】白米1.7 Bq / kg【鯉淵学園】白米0.9 Bq / kg【千葉・荒井農園・山形・おきたま興農舎・宮城・黒澤さん】白米はすべて不検出（0.2～1 Bq / kg以下）。玄米一部検出。【穀類】岩手岩泉産雑穀すべて不検出（各1 Bq / kg以下）。龍ヶ崎自然薬方研究所の雑穀セットも不検出（各1 Bq / kg以下）。
	71	（水田土壌） (71) めぐみちゃんはんは11生産者44枚の田んぼをすべて検査	めぐみちゃんはんが生産される常総市東町の水田土壌は、11生産者44枚の田んぼを土壌検査、土壌のCs濃度平均は230 Bq / kg(2011年) ⇒ 198 Bq / kg(2012年)に低下。（毎年3月実施、向こう10年間継続）
牛乳	15	牛乳 (15) 検査対象区域外だが、子どもが飲むことから定期検査対象とする	製品としての牛乳は現在北海道産（サツラク・日酪）のため、0.5 Bq / kg検出限界で定期検査。すべて不検出。鈴木牧場のヨーグルト・チーズの原料となる原乳も0.5 Bq / kg検出限界で定期検査。すべて不検出。
卵	11	卵 (11) 年2回検査（有機農家の卵については飼料（えさ）から卵への移行も調査）	【有機農家養鶏卵・やさとの卵】11検体は検出限界各5Bq / kg以下ですべて不検出（2012年3月）、10月に2回目の検査を実施【飼料】農家養鶏で与えている飼料のうち米ぬかで34 Bq / kg・玄麦で30 Bq / kgの検出の例があり、飼料による鶏の経口摂取があっても卵からは不検出（5Bq / kg以下）。
以上、（食品）1,357 検体＋（ほ場及び資材関係）265 検体 計 1,622 検体を実施しました。 【食品以外の検査】1,581 検体 ハウスダスト（489検体）、尿（40 検体 / 予備調査）、地下水（井戸水）。農業用水・沢水（27 件）、地域一般土壌メッシュ調査（828 検体）、霞ヶ浦流域底泥（197 検体）			

【ワタ（コットンボール）の収穫企画】

福島親子に、今年はコットンボールを届けましょう ワタの摘み取り、ご一緒しませんか！

秋たけなわ ワタの摘み取り ご一緒しませんか！
あいコープふくしまの皆さんに代わって、どうぞワタ畑の収穫にお出かけください。

あの、暑かった8月に、ワタ畑にこそってあいコープふくしまの皆さんとワタの里交流会をしました。黄色い花々の中に、やっと実り始めたばかりの小さな緑色の桃を見つけて、実りの秋が待ち遠しいね、でした。

●秋、コットンボールがはじける！

今は秋たけなわ、あの緑のコットンボールは、多少、台風や豪雨や強風に傷つきましたが、金色の光を浴びてふんわりほんわり真っ白なワタが弾けています。掌に そっと包み込んでみてください。

あいコープふくしまさんは、お贈りした赤ちゃんのお布団を、生協の宝物にして譲り次いでいくとおっしゃっています。

●今年は、コットンボールをそのまま！

去年は常総生協の組合員のみなさんで綿繰り（コットンボールから種を抜く作業）をしましたが、今年はコットンボールをそのままプレゼントして、福島の親子で綿繰りしてもらい、5～6年後の打ち直し用に貯めていってもらうことにします。

12月1日（土）のあいコープふくしまの生協祭の日に、私たちみんなの手で贈り届けたいと思います。このプランいかがですか。ご賛同いただけますように！



【日時】11月10日（土）10時から12時

【場所】つくば市自由が丘
自由が丘入口バス停近くのワタ畑

※地図は申込者に別途連絡

※雨天の場合、翌11日（日）実施

※収穫袋をお持ち下さい。

素敵な和棉の花はやがてその元に実をつけ繊細な繊維でやさしく包み込む



いざ完熟 弾けるコットンボール！

.....き り と り.....

● 11 月 10 日 ワタ畑集合 ワタ摘みプラン参加します

(コース名)

(班名)

(連絡先 TEL)

(組合員No.)

(組合員名)

(参加者) 大人 名 / 子供 名